



村井 慶太郎 議員



家庭ごみ排出量の現状は

問 9月議会でも同じ質問をしたが、一部納得いかないところがあったので、もう一度質問する。

答 9月の質問では、ごみ排出量の総トン数がまだまだ減っていないという答弁があった。松前町では平成23年度に一般廃棄物処理基本計画が策定された。そのときの目標値、現在の目標値は。

答 重松町民課長
令和元年度の家庭系ごみの排出量の実績は、7354tで、人口が3万710人であるため、町民1人当たりにするると1日656gになる。

松前町一般廃棄物処理基本計画では、計画最終年度の令和7年度において、家庭系ごみの総排出量を7664t、人口を3万2800人と推計して、町民1人当たりの排出量を1日640g

とする目標を設定している。以上のとおり、令和元年度の町民1人当たりの家庭系ごみ排出量は、令和7年度の目標に達していない。今後引き続き目標達成に向けて、ごみの減量に取り組んでいきたいと考えているので、ご協力いただきたいと思う。

問 平成18年度からごみ袋の有料化が始まり、平成17年度の1人当たりごみ排出量は1日915g、平成29年度は629gであった。1人あと卵1個分ごみをかさなかつたら目標値に達し、その際には指定ごみ袋の有料化について再検討するとの答弁もあった。

令和元年度は656gであり目標値に近づいている。さらなるごみの減量化に向け、地域へどのような

啓発活動をしているのか。

答 地域でのサロンに出張してのごみの減量・分別について話をしている。今年にはコロナの関係でまた開催はしていないが、子ども環境学園では、小さいときからごみの減量・分別を考慮してもらい、家庭にも広げような取組をしている。

また、ホームページでも減量・分別について載せている。



意見 先般の答弁で、「ごみ袋により2000万円の利益がある、手数料はいるが、収入は一般会計に繰り入れている。収入が上がっている。」と公然と言っている。

ごみは税金で補つべきで、町民の負担で補つのは違つと考える。

ごみ排出量の目標値に達成したときは、ごみ袋代を半額にしても、経費はここから十分出る。

町民意識を高めるために、目標を達成したらこうなるという具体的な例(極端に言えばごみ袋代半額)を示してほしい。そうすれば、町民が希望をもって努力し、達成時にはよかつたと思え、ごみの減量化が進んでいくと考える。

